



避難港ニ於ケル費用及損害ノ負擔者如何

田崎, 慎治

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 30(4):530-540

(Issue Date)

1921-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053300>



商業學
經濟學

國民經濟雜誌

第三十卷 第四號

(大正十年
四月一日發行)

論

說

避難港ニ於ケル費用及損害ノ負擔者如何

神戸高等商業學校教授

商學士 田崎 慎治

本篇ニ於テハ避難ニ伴フテ生ズル費用並ニ損害ノ負擔問題ヲ中心トシテ海上運送海上保險及共同海損ノ三者ノ相互關係ヲ論ゼムトス。

船舶ガ積荷ヲ搭載シテ航海中、遭難シテ船舶ニ故障ヲ生ジ、其儘ニテ續航スルコトハ船舶並ニ積荷双方ノ爲メニ危險ナルガ故ニ、途中ノ港灣ニ入津スルコトアリ。如斯事實ヲ惹起シタルトキハ、運送契約書面、或ハ保險證券面(若シ航路ヲ定メタル種類ノ保險契約ナルトキハ)ノ航路ヲ離ル。即船舶ハ航路外航行(Deviation)ヲ爲ス。然レドモ此ノ種ノ航路外航行ハ不得已ニ出ヅルモノニシテ(Involuntary deviation)船長

ノ職權ノ範圍内ニ屬ス、而シテ之ヲ海上運送ノ上ヨリ觀ルトキハ固ヨリ運送人ノ責任問題ヲ惹起スルコトナシ、然レドモ之ヲ海上保險ノ方面ヨリ觀ルトキハ稍疑問ヲ生ズルノ餘地アルガ如シト雖モ(日本商法第六六三條第四一一條)保險者ノ擔保セル危險ヲ避クル爲メニ、避難港ニ入津スル場合ニ在リテモ、又保險者ノ擔保外ノ危險ヲ免ガル、目的ニテ入津スル場合ニ在リテモ、保險契約ハ其ノ入津ニ因リテ效力ヲ失フモノニアラスト爲スヲ以テ寧ロ當然ナリトス(英國海上保險法第四九條D項)

却說、避難港ニ入ル場合ニハ、船舶ハ其ノ航路ヲ離レテ安全ナル地點ニ達スルマデノ間ニ於テ、換言スレバ針路ヲ轉ジテヨリ、錨地ニ到達シ、船舶積荷ノ各ガ安全ナル地位ニ置カル、マデノ間ニ於テ、諸種ノ費用ヲ支拂フ即チ遭難地ヨリノ曳船料、水先案内料、航海用並ニ排水用ノ燃料石炭、其ノ他ノ機關部消耗品噸稅等ヲ支拂フ。又若シ本船内ニ積荷ヲ置クコト能ハザル事情アルトキハ、其積荷ノ一部又ハ全部ヲ一應本船ヨリ卸サザルベカラズ、而シテ本船ハ之ヲ修繕スル必要アレバ之ヲ修繕シ、落成ノ上ハ先キニ卸シタル積荷ヲ再ビ積込ミ出帆シ航海ヲ續行シテ仕向地ニ達ス。斯ル手續ノ爲メニ種々ノ費用ヲ要ス、例之積荷ニ關シテハ舁船賃、船内人夫

賃、車力賃、積荷ノ倉入費用、積荷ノ保管中ノ艀船賃、倉敷料ヲ要ス、又船舶ハ其間ノ船員ノ給料、食料ヲ支拂ハザルベカラズ。又修繕スレバ修繕費用ヲ造船所ニ支拂ハザルベカラズ。修繕落成ノ後再ビ積込ムニ當リテハ人夫賃、艀船賃等ヲ要ス。

船舶ガ航海ノ途中ニ於イテ避難スル主要ナル原因ヲ左ノ二種ニ分類スルヲ得ベシ。

一、保險者ノ擔保セル航海ノ事故ニ直接原因セル船舶ノ損傷ノ場合 (accidental damage to ship) 例ヘバ船舶ガ暗礁ニ觸レ船底ヲ傷メ浸水甚シク續航ハ危險ナルガ爲メニ避難スル場合ノ如シ。

一、犠牲的行爲即チ共同海損行爲トシテ釀サレタル船舶ノ損傷ノ場合、例ヘバ帆船ガ航海中暴風ニ遭ヒ、顛覆ノ運命ヨリ免ガル、爲メニ船長ガ故意ニ帆檣ヲ切捨テ其ノ結果トシテ他船ニ曳船セラレテ安全地點ヲ求ムル場合ノ如シ。

尙以上二原因ノ外例ヘバ本船ハ毫モ損傷ヲ蒙ラザルモ、天候不良ノ爲メニ安全地點ヲ求メテ一時風待チヲ爲ス場合ノ如キモノアレドモ今ハ之ヲ省略ス。

船舶ガ損傷シテ避難シタル場合ニ於テ、運送人ハ任意ニ其運送契約ヲ避難地點ニ於テ打切ルコトヲ得ズ。積荷ガ最早運送ニ適セザルカ乃至ハ本船ガ修繕不可能

ナル狀態ニアル場合ノ外ハ其ノ運送契約ハ矢張繼續シテ履行セザルベカラズ(日本商法第六一三條第六一六條)而シテ是レ各國同様ナリ。如斯事情ノ下ニ此ノ運送契約ヲ續行スベキ運送人ノ義務ヲ免レ得ルガ如キ約款ハ現今一般ニ行ハレツ、アル運送契約書(船荷證券或ハ傭船契約書ノ類ヲ云フ)ニハ記載セラレ居ラザルナリ。

却說、斯ク入津シタル本船ハ其避難地ニ於テ之ヲ修繕シ、再ビ全積荷ヲ搭載シテ出帆スルヲ以テ原則トナスモ、都合ニヨリテハ本船舶ハ避難地ニテ之ヲ解放シ、他ノ船舶ニ積換ヘテ運送ヲ續行スルコトアリ。或ハ避難地ニ於テ本船ノ假修繕(應急修理)ヲ行ヒ積荷ノ一部分ノミヲ搭載シ、他船ニ曳船セラレテ目的地ニ向ヒ、積荷ノ殘部ハ汽車便或ハ他船ニヨリテ夫々仕向地ニ届クルコトモアレド、先ヅ此ニハ原船舶ヲ避難地ニテ修繕シ(本修繕即チ Permanent repair)再ビ積荷ヲ全部搭載シテ仕向地ニ到ル場合ニ就テ生ズル費用及損害ノ負擔問題ヲ研究セントス。

米國ハ避難ノ目的ヲ以テ本船舶ガ豫定ノ航路ヲ離レタル時以後ヨリ避難港ヲ出帆スベキ用意ノ整フマデノ間ニ於ケル船舶積荷ノ諸費用ヲ共同海損トナセリ、即チ米國ニ於テハ避難中ノ費用ノミナラス、船舶轉針以後避難地ニ達スルマデノ

間ニ於ケル航海用ノ燃料、其間ノ船員ノ給料、食料ヲモ共同海損トナス(米國ニテモ出帆後原ノ航路ニ復歸スルマデノ間ノ燃料、船員ノ給料、食料等ハ共同海損トナサズ)歐洲大陸ノ規定ヨーク、アントワープ規定並ニ共同海損ニ關スル國際法草案(註八)ノ如キハ避難港内ノ費用ノミヲ全部共同海損トナセリ。

註八一 一九一三年西班牙國マドリードニ開催セラレタル第二十八回國際法協會ニ於テ假決議ヲ經タル共同海損ニ關スル草案ニシテ、現行ヨーク、アントワープ規定ニ代リテ、早晚實際ニ行ハル、コト、信ズ、尤モ次回ノ國際法協會ニ於テ本決議ヲ經ルマデノ間、廣ク各國學者實際家ノ間ニ此ノ草案ニ就キ研究セラレ、互ニ意見ヲ交換セラル、コト、ナレルナリ。

然ルニ獨リ英吉利西ハ避難港ニ於テ積荷ガ本船ヨリ卸サレ安全ノ地ニ置カレ、本船モ空船トナリ、安全ニ碇泊シ或ハ入渠スレバ此ニ共同海損ハ終リヲ告グルモノトセリ。是レ危險ノ存在ヲ以テ共同海損ノ要素トスル主義(Common danger principle)ヲ英吉利西ハ例外ヲ設ケズシテ、徹底的ニ墨守セルヲ以テナリ、而シテ英國ニ於テハ船舶ガ修繕ヲ終リテ出帆スルマデノ費用ハ夫々ノ目的物上ノ單獨的負擔(pecuniary charges)トセリ、詳言スレバ、積荷ノ倉敷料ハ積荷ノ負擔、再積込ノ費用ハ運送賃

ノ負擔、船員ノ給料食料ハ船舶ノ負擔トス(倫敦海損精算人協會規定第十八條然ルニ英吉利西ニ於テモ本船ガ共同海損タルベキ犠牲的損傷ヲ被リ避難港ニ入津シタルトキハ歐洲大陸諸國ト同様ニ積荷ノ陸揚以後ヨリ出帆マデノ費用ヲ悉ク共同海損トセリ。尤モ英國ニ於テモ船員ノ給食料ノミハ斯ル場合ニ於テモ尙船主ノ負擔トセリ)(倫敦精算人協會規定第十九條)(註九)

註九 船舶ノ犠牲的損害ノ修繕ノ爲メニ釀サル、所ノ積荷ノ倉敷料、再積込ノ費用等ガ共同海損トナルハ當然ナリ。此レ共同安全主義ト矛盾スルモノニアラズ、又共同安全主義ノ例外ニモアラズ。唯英國ガ船員ノ給食料ヲ斯ル場合ニ共同海損ヨリ除斥セルコトノ不合理ナルコトハ英國ニ於テモ認メラレツ、アリ。或ハ英國ニ於テモ他日船員ノ給食料モ共同海損トシテ認ムル時期ノ到來スベキヲ信ズ。

素ヨリ何レノ國ニ於テモ船舶ノ不可抗力ニ因ル損害(Accidental damage)ハ船舶ノ單獨ノ損害ニシテ、其ノ修繕ノ費用ハ船主ノ單獨負擔ニ屬ス。之ニ反シテ犠牲的損害ノ修繕費用ハ之ヲ共同海損トスベキコトハ明白ナリ。避難港ニ於テ其取扱上不得已、即チ必然的ニ生ズル所ノ積荷ノ損害ハ其ノ積荷ノ取扱ニ要スル所ノ費用ト運命ヲ共ニスベキ道理ニシテ從ツテ積荷ヲ陸揚シ、倉庫へ運搬スル爲ノ不得已損

害ハ共同海損トナルベシ。又倉庫内ニ於テ起ル所ノ不得已損害ハ米國或ハ歐洲大陸等ニ於テハ共同海損トナリ、英國ニ於テハ船舶ノ修繕費用ガ共同海損ナルトキハ、倉庫内ニテ必然的ニ起ル損害ハ共同海損トナリ、修繕費用ガ單獨海損ナルトキハ其ノ積荷ノ損害モ單獨費用トシテ積荷ノ負擔ニ歸ス。

抑々如何ナル事由ノ下ニ積荷ノ損害ガ單獨海損トナリ、又共同海損トナルヤト云フニ、ヨーク、アントワープ規定第十二條及倫敦精算人協會規定第二十七條モ必然的ニ積荷ノ取扱ヒニ伴フ所ノ損害ハ其取扱上行爲自體ガ共同海損行爲ナルトキハ之ヲ共同海損トスベキモノナリト規定セリ。然ラバ如何ナル場合ヲ必然ト云フヤニ付キ英吉利西ニ於テハ歐洲大陸及米國ニ比シテ稍嚴格ナル解釋法ヲ採レルガ如シ(註一〇)

註一〇 ローレンズ氏ハ其著「共同海損法」ニ於テ積荷ノ陸揚ノ行爲ガ如何ナル場合ニ於テ必然的ニ損害ヲ伴フベキヤニ付キ三ノ事由ヲ説明セリ(P. 101)

ローレンズ氏ガ同頁ノ脚註ニ於テ Hamel v. P. & O. S. N. Co., 1908 ノ判例ヲ掲グル所ヲ見ルニ、積荷ノ陸揚ノ際ノ艀船内ノ損害ノ如キハ單ニ船舶ノ單獨海損ノ修繕ノミナ目的トスル場合ニハ共同海損タラズトセリ。カーパ著「海上運送法」ニ依ルモ、單獨海損ノ損害ヲ修繕

スル爲メノ陸揚中ノ積荷ノ損害ハ共同海損タラズ。假令修繕セザレバ航海ヲ繼續スルコト能ハザル場合モ亦同シトセリ(S. 413 (a))尙白耳義法ニ付キ Lowndes P. 450 和蘭陀法ニ付キ同書 P. 570 脚註(e)ヲ見ヨ。

米國 (Congdon—General Average) ニテハ英國ニ比シテ輕ク解釋サレ大體ニ於テ陸揚ノ際舢舨船内ニ起ル積荷ノ損害ヲ共同海損トセルガ如シ。

尙 "Draft International Code relating to Average" S. 9 (f) (G. A. in special Cases) 27th Report of the International Law Association, Paris 中ノ Collateral Summary on P. 415 sec. 22 (p)

倫敦精算人協會ノ精算規定 S. 26 S. 27 ヲ見ヨ。

既ニ述ベタル通り、避難費用ノ取扱方ニ付キ米國式歐洲大陸式(Y. A. Rules, D. I. C. relating to G. A.)ノ如キ國際規定モ亦然リ(英國式ト大列三方式アルモ、米國式ト歐洲式トハ大體ニ於テ同一方式ナリ。而シテ其差ハ歐洲大陸ハ避難港ニ達シタル以後ノ費用ヲ共同海損トナスニ對シテ米國ハ其以前ニ遡リ航路ヲ離レタル時以後ノ船員ノ給食料、燃料炭ノ如キモノヲモ共同海損トナスノミノ相違ナリ。歐洲大陸ニ於テモ、亦國際的ノ規定ニ於テモ、蓋シ米國主義ノ如キモノヲ以テ其理想ニ近キモノトシテ認識セルモ(眞ノ理想トシテハ蓋シ出帆シテ原航路ニ復歸シタル時マデヲ共同海損トスルニ在リ)其船舶ノ轉針ノ正確ナル地點及之ニ伴フ費用ノ正確

ナル金額ヲ求ムルコトノ困難ナル關係上、即チ取締ノ都合上、歐洲大陸ニ於テハ航路ヲ離レタル以後、避難港入津マデノ費用ヲ共同海損ヨリ除外セルナリ（危險ヨリ船舶ヲ救助スル爲メノ費用、例之避難地點ヨリ避難港マデノ曳船料ノ如キモノガ常ニ共同海損ナルコトハ勿論ナリ）。

抑モ運送人ハ積荷ヲ仕向地ニ送届クルコトヲ約束セルモノナルヲ以テ、假令、途中危難ニ遭遇スルモ船長ハ救助ニ向テ相當努力スベキハ勿論ナリ、又船舶ガ損傷ヲ被ムルモ修繕可能ナレバ、之ヲ修繕シテ運送ヲ繼續セザルベカラザルコトハ既ニ説明セルガ如シ。果シテ船長ニ斯ル責任存スルナラバ、夫等ノ爲メニ要スル所ノ費用モ、悉ク運送人單獨ノ負擔ニ終ルベキニアラズヤトノ疑問モ生ズレド運送人ハ斯ル避難港ニ於ケル諸費用ヲ悉ク自ラ單獨ニ負擔セザルベカラズトノ議論ハ今日ニ於テハ認メラレズ。而シテ避難ノ諸費用ノ決定ノ方法ガ前述ノ如ク、種々ニ分レ、殊ニ英國主義ハ他ノモノト著シク相違セリ。

尙以上述べタル所ノ費目ノ外ニ、避難港滯在中ノ碇泊料、即チ船舶ノ Demurrage ヲ共同海損トスベキモノナリト主張スル船主アレドモ「デマレーヂ」ハ何レノ國ニ於テモ、之ヲ共同海損トセズ。之ヲ共同海損トセザルコトノ理由トシテ抑モ「デマレー

デナルモノハ所謂船費ニシテ、船舶ニ對スル船主ノ資本ノ報酬ト見ルベキモノナリ。若シ一方ニ於テ避難港滯在中、デマレーヂヲ共同海損トスルナラバ、他方ニ於テ避難中ノ積荷ノ上ニ利子ヲ付セザルベカラズ。若シ船舶ニ、デマレーヂヲ與ヘ積荷ニ利子ヲ與フルナラバ、結局關係者ハ各自己ノ要求スル金額ト自己ガ負擔スル金額トハ同一トナリテ、此等ヲ共同海損トシテ全ク許容セザル場合ト同一ニ歸着スベキガ故ニ、デマレーヂハ之ヲ共同海損ヨリ除外シテ可ナリトノ說ヲナス者アレドモ、此ノ說ハ單ニ共同海損ヲ共同海損ノ方面ヨリノミ見テ今一ツ之ヲ海上保險ノ方面ヨリモ見ザルベカラザルコトヲ忘却セルモノナリ。海上保險者ノ負擔ハ若シ「デマレーヂ」ヲ共同海損トセバ著シク増加スルコト、ナリ、船主、積荷主ハ之ガ爲メニ大ナル利益アリ。

尙「デマレーヂ」ニ類似セル費目ノ今一ツ存スルハ船主ノ支出シタル費用ニ對シテ（共同海損タルベキ費用）利子ヲ付スベキモノナリトノ船主ノ主張ナリ。之レモ若シ船主ノ支出シタル費用ニ利子ヲ付スルナラバ、積荷其他ノ物的犠牲ニ對シテモ同ジク利子ヲ付セザレバ公平ヲ失ス。米國ニ於テハ此等ニ對シテ利子ヲ付セリ。是レ蓋シ理想的方法ナリトス。米國ニ於テハ此ノ利子ヲ付スルガ爲メニ共同海損ノ

金額増大シ、從ツテ保險者ノ支拂額増加ス。單ニ共同海損ノ上ヨリノミ見ルトキハ利子ヲ付スルモ付セザルモ、船主、荷主等ノ關係者ニ取リテハ結局大ナル損得ナシト雖モ海上保險關係ヲ考慮ニ入レテ考フルトキハ船主及荷主ニ取リテ頗ブル重要ナル問題トナルベシ、我國ハ從來英國主義ニ則リ利子ヲ付セザルモ、或ハ今後米國式ヲ斟酌シテ利子ヲ付スルヲ以テ、共同海損自體ノ上ヨリ見ルモ亦殊ニ海上保險自體ノ上ヨリ見ルモ公平ニアラズヤト思惟ス。

要之、海上運送、海上保險及共同海損ノ三者ハ相互ニ關係的ニ之ヲ考查シテ費用損害ノ負擔ノ公平ヲ期セザルベカラズ。